

「河内長野市総合計画審議会 第2部会（第2回）」会議録

日時：平成26年11月6日（木）

午後6時30分から

場所：市役所3階301会議室

出席委員12名

- | | |
|------------|---------------------|
| 1号委員 | 木ノ本寛、中林圭見 |
| 2号委員（各種団体） | 上野修二、生地孝至、奥野豊、増田勝紀、 |
| 2号委員（公募） | 幸山善信、渋谷修、森脇稔 |
| 3号委員 | 加藤司、嘉名光市、加我宏之 |

欠席委員2名

- | | |
|------------|------|
| 2号委員（各種団体） | 吉年正守 |
| 4号委員 | 松井芳和 |

事務局

- 総合政策部長：辻野
総合政策部副理事兼政策企画課長：小林
政策企画課参事：島田
政策企画課課長補佐：緒方
政策企画課主幹：谷ノ上

ジャパンインターナショナル総合研究所

伊藤研究員

【辻野部長】

ただいまより河内長野市総合計画審議会第2部会を開催します。ご多用のところ、ご出席いただきありがとうございます。本日は2回目の部会となり、前半部分は第1章、第2章の確認ということで、前回の3部会での意見を踏まえた修正案を配布しています。後半部分は、これまでの議論を踏まえまして第3章、第4章をご検討いただきます。

総合計画審議会条例第6条第2項において、審議会は委員半数以上の出席で成立することとなっておりますが、本日は14名の委員のうち12名のご出席で、審議会が成立していることをご報告いたします。それでは、加藤部会長に議事の進行をお願いします。

【部会長】

こんばんは。時間が遅くなりましたが、会議に積極的にご参加いただきありがとうございます。前回到引き続き、積極的なご意見を頂戴できればと思います。早速、議事に入りますが、本日の議事は大きく2つあり、前回のおさらいと、新しく第3章、第4章について議論し意見を頂戴することです。まず、議事の一つ目について、事務局から説明をお願いします。

(事務局より配布資料の確認)

【緒方補佐】

冊子（基本構想骨子案）と総合計画審議会第1回部会等意見対応表を合わせてご覧ください。冊子の下線部が修正点です。

第1章「総合計画とは」です。3ページの第1節「目的」の5行目「少子高齢化」は、少子化と高齢化で、対策が異なるので分けて考えたほうが良いという意見から、全て「少子・高齢化」という表記にしました。

4ページの「市長が掲げるマニフェスト」は、あえて記載する必要がないという意見に対応して削除しています。「実施計画」の下は、前回「ローリング方式」でしたが、難しい表現は、説明として置き換えるか、ページの下か最後に用語集として説明を加える方法で整理しようと思っています。ここでは、置き換える形で説明を加えています。

5ページの2の「経営の視点を重視した」は、「経営」という言葉が営利企業等のイメージがあり誤解を招くのではないかということから、経営の中身について「地域資源の有効活用や施策の選択と集中など」という注釈の文章を加えました。

第2章「総合計画策定の背景」です。6ページは「第1節 社会潮流」で、「1. 少子・高齢化の進行による人口減少及び人口構造の変化」は、全国的なトレンドとして入れる必要があるという意見から、「都市機能の集約化」という表現を加えています。「3. 環境保全の重要性の高まり」は、以前は「持続可能な循環型社会の構築」でしたが、「循環型社会」は環境だけでなく、経済面や行財政の面などでも使うので、検討したほうが良いという意見から、「循環型」を避けた表現にしています。「4. 経済情勢や産業構造の変化」の一番下は、女性の活躍等の意見が出たので、ここでは労働力という観点から記載しています。

7ページです。前回は6と7が1つで「地方分権型社会の進展」という、行政目線での記載について、「6. 住民自治社会の実現への期待」という形で市民自治の部分と、「7. 地方分権の進展と広域連携の推進」という2つの項目に分けて、市民も積極的に役割を担っていかないといけないという書きぶりに変えています。

8ページ、第2節「河内長野市の現況」では、河内長野の特性や強みが出てこないという意見から、それらを載せるのであればここが一番ふさわしいということで、「1. 沿革」では、「教育立市宣言」や「奥河内をキーワードとした交流人口の増加」という主な取り組みをピックアップして入れています。「2. まちの特性」にも河内長野の強みや特性をふんだんに入れて、河内長野の資源というものを理解していただくようにまとめています。

9～11ページの人口については、資料をご覧ください。

資料②「平成 25 年度 転入・転出者アンケート最終報告」の 4 ページ「転居の理由」で、20～30 歳代の転入のきっかけは「結婚」、40～50 歳代は「住宅の購入・相続・借家の借り換え」、60 歳以上は「親族との近居・同居等」が多くなっています。転居のきっかけは、20～50 歳代は「仕事」が多い傾向です。6 ページの転入理由は、どの年代も共通して「家族が住んでいる」が一番多く、7 ページの転出理由は、20～50 歳代までは「通勤通学に便利」、60 歳以上は「住宅条件がよい」とか、市外に「家族が住んでいる」という傾向になっています。

資料③の「2014 年版住みよさランキング比較」は、河内長野は大阪狭山よりも順位が悪かったので資料を出してほしいということで用意した資料です。利便度 39 位というのは間違いではなく、大阪近郊がほとんど 39 位だったようです。本市が大阪狭山と比べて優位性があるのは、住居水準充実度という住宅述べ床面積、持ち家世帯比率です。それ以外の項目について、大阪狭山の順位が高くなっているのは、特に大きな病院などがあつたりするので、それらが影響しているかと思えます。

資料④「転入・転出の傾向」は、平成 15 年～25 年で並べています。転入と転出の差が一番大きいのは 20 歳代ですが、ここ最近の傾向としては 60 歳代前後も若干減少が増えつつあるというのが見て取れる資料です。

資料⑤は、人口動態を自然動態と社会動態で分けた表です。自然動態は出生と死亡の差で、平成 16 年から亡くなる方が多くなっています。社会動態は転入と転出の差で、平成 11 年から転出が多くなっています。現在、社会動態の減りのほうが大きく、平成 31 年くらいから逆転すると見込んでいて、社会動態は落ち着き、自然動態の減りが多くなってくのではないかと思います。

資料⑥は、人口減少対策について、今までの取り組みを並べています。自然動態としては、子育て支援や高齢者の取り組みを行ってきました。社会動態では、転入・定住促進の施策として制度の取り組みと、「教育立市のまちづくり」ということで教育にも力を入れて、「3. 魅力発信」として、市の魅力を PR してきました。

9～11 ページは、大きな変更はありませんが、23 ページをご覧ください。目標 10 万人とすることについて、意見をいろいろ頂きました。まず、グラフが見にくかったということでグラフを修正し、「健康寿命の延伸」についても入れました。また、交流人口の増加を定住人口の促進につなげることも必要ということで、交流人口の部分についてもふれて修正を加えています。

12 ページ「土地利用」では、前回「農用地」でしたが、「農用地」の定義は農地と牧草地となっており、牧草地がない河内長野市の実態に合わせ「農地」に変更しています。量的な面積の増減だけでなく質的な問題もあるという意見から、空き家の増加と耕作放棄地の部分について文章を加えました。その裏付けとなる資料が⑦と⑧です。

資料⑦は「空き家の状況について」で、「住宅総数の推移」の表の「空き家」は今まで 8% 増くらいだった推移が、平成 20 年は 10.5% 増ということで、増えている状況が見て取れます。また、資料⑧は「農業に関するデータ」で、2 ページの「耕作放棄地面積」は全体で 14% 増えています。

13～15 ページは「財政の状況」です。前の整理の仕方では、いきなり収支の話が出てきて、理解が難しいという意見から、まず、歳入では市税が減ってきていること。歳出は児童福祉費や生活保護費の増加はありますが、やはり一番大きいのは介護関係の費用であること。財政収支では市債、基金、最後に収支はどうなっているのか、15 ページの表につなげて、理解が進みやすいように工夫し、「歳入の推移」「歳出の推移」「財政収支の状況」の順で並べて整理しました。

16～17 ページについては、変更がありません。

18～20 ページは、課題をしっかりと押さえて、次に活かさないといけないという、たくさんのご意見から、18 ページの「1. 人口減少と人口構造の急速な変化」は、もともと「人口減少」でしたが、後ろに「人口構造の急速な変化」を加え、人口の減少だけではなく人口構造の変化が大きな問題であるという表現にしています。また、もっと危機感のある内容を盛り込んだほうが良いという意見から3行目に列挙しています。別の部会からは、子育て支援に力を入れる必要があるという意見から、その辺の文言を入れています。併せて、下の3行に地域の特性に合った対応が必要ということと、女性等の活躍ができる仕組みを最後に加えています。

「2. 超高齢化への対応」は、高齢化をマイナス面ではなくプラス面で捉えていく必要があるという意見から、「高齢者の活力をまちづくりに活かす」という文章を最後の3行に加えています。別の部会からも、「超高齢化」という言葉について整理したほうが良いのではないかと、高齢化以外の福祉の課題も織り込んだほうが良いという意見を頂き、文章の組み換えを検討しています。

「3. 安全で安心なまちづくり」は、ここに限らず、河内長野固有の課題まで掘り下げられていないという意見から、3行目の「災害」で、山がちな地形なので一番の課題は土砂災害ではないかということで、より課題が分かるような表現を追加する形で整理しています。

「4. 環境の保全とより良い環境の創造」は、河内長野の特性として森林や里山の部分も大事にするという観点から、文章を加えるとともに、質の高いという部分と、より良い環境を創造するという表現を加えています。元からある自然だけではなく、行政等が整備した緑も保全管理が必要という側面から、「環境の保全とより良い環境の創造」という形でまとめています。

19 ページの「5. 地域の連携による産業の振興」では、経済活動の部分を市内でどう循環させるかが重要という意見から、3～4行目の文章を加えています。併せて、最後のほうで「既存企業の支援」「起業促進、企業誘致の促進」についての取り組みも書かせていただきました。

「6. 質の高い魅力ある都市づくり」は、想定はハード的な部分ですが、量的な部分から質的な部分に変わってきている中、「質の高い」というのがキーワードではないかということでこういった表現にしています。また、インフラや公共施設が一度に老朽化による更新時期を迎えている辺りを書き込む必要があるという意見から、中ほどに文章として入れています。

「7. 教育立市による人づくり」は、河内長野の特性として「教育立市」で進んでいるので、そういう説明をしたほうが良いというところをまとめています。

「8. 地域コミュニティの活性化」は、市民相互の協働を進めながら地域の活性化をしていくという形でまとめています。「協働型行政」という形で市民協働の部分が9にも出ているため、8と9が分かりにくいという意見から、課題8は市民主体の部分、課題9は行政運営という構成でまとめています。20 ページの2行目に「高度情報化にふさわしい新たなサービスの展開」とありますが、「社会潮流」でも情報化の話が出ていたので、課題に対応する形で新たに加えています。

「10. 広域的な連携の推進」は、近隣の市町村との広域連携が重要という書きぶりで、しっかりと書いています。修正点の説明は以上です。

【部会長】

ご意見ご質問等、いかがですか。

【幸山委員】

今日新たに「都市空間づくりの考え方」で小学校区を基本とした「エリア」が出てきますが、4ページの「地域別計画」は、確か小学校区単位だと記憶しています。この「地域」と「エリア」が同じであれば、統一する必要があるのではないかと思います。

【緒方補佐】

後半の土地利用のところで、「エリア」について、言葉の部分だけではなく、考え方もご検討いただこうと思っていますので、言葉も含めてその時に議論いただければと思います。

【増田委員】

3ページ下段の「これまでの総合計画の期間と将来都市像」を見ると、第1～3次総合計画は「都市」、第4～5次は「まち」という言葉で表されています。課題のところでも「都市づくり」と「まちづくり」というように、言葉が混同しています。

【部会長】

多分、時代の雰囲気とか背景を表してこうなっていると思いますが。

【緒方補佐】

「都市」にはハード系のイメージがあるので、どちらかというソフトのまちづくりも含めたトータルイメージということで、「まち」と表したトレンドがあるのではないかと見ています。

【副部会長】

最近では平仮名で「まちづくり」とくくられることが多くて、特に総合計画の枠組みでいえば、「まちづくり」がトレンドではないかと思います。

【部会長】

時代によってその思いが違うということですね。

【上野委員】

18ページの「2. 超高齢化への対応」で、「社会参加の促進」や「高齢者の活力をまちづくりに活かす」とありますが、施設に入っている人は別として、年齢は何歳以上を考えているのですか。「超高齢化」という言葉が少し引っ掛かります。

【緒方補佐】

元気であればいくつでも、という部分もあるのですが、想定としては65～75歳の前期高齢者が高齢者の活力の部分ではメインになってくると考えています。「超高齢化」の言葉については、検討させていただきます。

【増田委員】

8ページの「2. まちの特性」の4行目の「石見川」は、「天見川」ではないですか。三日市を流れているのは「天見川」です。

【上野委員】

「石見川」であっています。

【増田委員】

文章では、「河川沿いに平野が開け」ですから、(石見川の流域である)小深などは平野とは言えません。

【部会長】

その辺は検討をお願いします。他にいかがですか。

【木ノ本委員】

8ページの「1. 沿革」の「教育立市宣言を行い」は文章的に少しおかしいです。「教育立市を宣言し」だと思います。18ページの「3. 安全で安心なまちづくり」では、土砂災害への対応が課題なのは一部で、河内長野は、起伏は多いけれど、大阪で一番と言って良いほど安全で災害の少ないまちだと思います。それを強調しないと、河内長野はどこでも危ないと取られかねないと思います。

【部会長】

その前に、「非常に安全なところではあるが」とあります。

【木ノ本委員】

19ページの「8. 地域コミュニティの活性化」の8行目に、「自治会やまちづくり協議会など」とありますが、「地域コミュニティの活性化」は、何を基礎基本とするのでしょうか。安心・安全、あるいは福祉の観点からも「向こう三軒両隣」は緻密な隣近所から発信しなければならないということからすれば、自治会の充実が最優先されるべきだと考えています。それを並列化で書くということは、今もそれぞれの地域で問題となっていますが、今後さらにトラブルの原因になるので、この辺をきちんと整理していただきたいと思います。

【部会長】

実態を知らないなので、簡単をお願いします。

【木ノ本委員】

そうではないといわれますが、まちづくり協議会は、後からの発案で、自治会組織の上にまちづくり協議会が学区にできました。自治会は、それぞれの地域で、1年～3年なりで役員が交代して

公平公正な運営をされているボトムアップの組織です。まちづくり協議会は、市が後から上からつくった団体で、組織だけつくったら40万円を渡すという形なので不公平感があって、自治会で今まで一生懸命長年地域で働いてきたり、無償で奉仕活動をされてきた方が非常に立腹されています。

【部会長】

いろいろな深い意味合いがあるということが、はじめて分かりました。

【上野委員】

まちづくり協議会は、一番古いのは長野小学校区です。まだできていない校区もあるので、いろいろな問題があります。やはり、主体は自治会です。

【部会長】

自治会が主体というか基礎単位で、それをある程度まとめるのがまちづくり協議会ですか。

【木ノ本委員】

そうではありません。現状のまちづくり協議会は、市がテーマをはっきり示さずに、とにかく組織だけつくってくださいという形なので、いろいろな戸惑いがあります。目的と手段が間違っているので、目的をはっきりさせてください。つくり替えてもいいのではとずっと言い続けています。自治会は本当に自治の組織ですので、いろいろなことをそれぞれの地域で一生懸命にやっていたいていて、全く申し分ないですが、河内長野市はよその市に比べて自治会のための促進策が遅れていますので、そのことを優先すべきではないかと思っています。

【渋谷委員】

自治会がありながら、また同じような組織ができて、役割分担はどうなるのか質問をしたら、自治会も防災組織があるのに、「まちづくり協議会は、防災中心のものです」と言われました。いろいろな会や協議会は全て役割があつての会です。いったいまちづくり協議会の役割は何なのかというのが市民の考えと思います。

今の世の中、自治会に何で入らないといけないのかという人が多くなっていて、法的にも無理やり入れられません。自治会をどうすればいいのか、名前が悪ければ自治会という名前を今風にでも変えればいいと思います。

【木ノ本委員】

まちづくり協議会をこの総合計画に入れることは、混乱の元になります。一般の市民の皆さんは、出しているお金ではかられます。市は、自治会に集会所の整備など若干の補助施策はされていますが、直接の金銭の支援はありません。まちづくり協議会は、組織だけつくれば何でも構わないので40万円渡すという形になっているので、その辺に立腹される原因があります。だから、目的をはっきりしてほしいのです。

【辻野部長】

市もまちづくり協議会を大きなまちづくりの要として盛り立てていますし、小学校区ということで地域別計画との兼ね合いもあります。昔からのコミュニティということもあって、他の部会からも自治会を中心とか、自治会は大事という意見を頂いています。唐突にまちづくり協議会という名称だけが出てイメージが湧きにくいので、どのような組織なのか説明していこうと思います。

【木ノ本委員】

防災なら防災でもいいので、目的をはっきりしてくればいいです。不明確になっているので、再度申し上げます。目的を明確にしないと混乱を生みます。

【部会長】

分かりました。機能について役割分担を明確にするような記述で、事務局で相談していただきたいと思います。

【上野委員】

実態は、地域の役員がまちづくり協議会の役員に入っていて、同じことを同じ人間が行っています。

【部会長】

その辺の重複がいいのか悪いのか、その辺も含めてご検討いただきたいと思います。

【副部会長】

6 ページの4で、「女性や高齢者が活躍できる」と書いていただいたことに異論はないのですが、「労働力を確保する観点から」というのは、書きすぎのような気がします。「地域活力を高めていくことが求められていくときに、高齢者や女性にももっと活躍していただけることが大事」ぐらいの書き方のほうがいいのではないのでしょうか。いったん、雇用とか産業とかの話があるのであれば、それはそれで書いて、それ以外にも多様な担い手が参画していただくことが大事ですという書きぶりのほうがいいと思います。労働力があるからというのは、生々すぎる印象があります。

15 ページの図9にある「類似団体」とは何ですか。ご説明いただいてもいいし、注釈とかを付けていただいたほうがいいと思います。

【辻野部長】

人口規模が一緒ということで、府内では箕面市や池田市というレベルです。

【部会長】

注に入れていただいてもいいと思います。

【副部長】

18 ページの課題 4 に景観づくりが入っていますが、景観は環境に入ることもありますので、私はどちらかという課題 6 の都市づくりに入れてほしい感じがします。

【部長】

立場の違う加我委員のご意見も頂戴したいと思います。

【加我委員】

嘉名副部長がおっしゃっているのはそのとおりで、都市づくりでも、恐らく出来上がったものをみんなが親しめる美しい風景や景観とすることでも関係すると思います。環境でも景観づくりを使いたいので、課題 4 から抜くのは悩みどころです。「4. 環境の保全」に「環境美化の推進」とありますが、「美化」という言葉は、狭義ではごみ拾いと不法投棄を片付けるということです。広義では環境を美しくすると取れるのですが、単純に清掃活動だけ捉えているのであれば、質の高い美しい景観づくりではなく、農地は農地、河川は河川、森林は森林としての健全性という、きちんとした景観コントロールの保全や活用を図ることなので、あらためて「環境美化の推進」は入れなくてもいいのではないかと感じています。

【木ノ本委員】

河内長野は起伏が多く谷も多いので、違法・不法投棄がとても多いです。そういう意味からすれば、環境美化も入れておいたほうが、この地域に合っていると思います。河内長野の場合の美観は、つくられた美観ではなく、さりげなく自然を活かした美観を大切にしようがいいのではないかと思います。

【加我委員】

不法投棄を除去することと、耕作放棄地の問題があります。農地がきちんと水田になって営農化されている、これが美しい風景景観です。そういうことも含めて、美化だけが挙がっていると、よく「清掃活動をしたら景観は美しくなる」と、短絡的に言われます。皆さんの認識が違えば、これで構いません。

【木ノ本委員】

美化のところに例えば、休耕田の場合はれんげ草やコスモスの種をまいたり、あるいは山間部の傾斜地の道路端には山吹や地域の山野草があります。そういうものをもっと再生しようじゃないかという思いも含めて「環境美化」と捉えています。地域の皆さんにご協力をいただいて、全体で自然の美観を進めていこうという思いがいいのではないかと思います。

【加我委員】

それなら私も納得します。それくらいの言葉で、この「環境美化」ということを捉えないと、ごみを集めればよいということで終わってしまいます。めざすべき方向がこの美しい景観ですという

ことであれば、ここでもう1回使ってもいいと思います。

【副部長】

課題6にも「景観」というキーワードを入れていただきたいと思います。

【辻野部長】

平成12年に増田会長のコーディネートで景観形成計画を作ったのですが、その中では都市的景観の形成と自然歴史的景観の課題という2つの項目を挙げています。両方にまたがった構成になっていますので、その辺を含めて検討させていただきたいと思います。

【部長】

両方に入れているということで、一件落着です。美化についても、先ほどの議論の意味合いで、文言を「美観」にしたほうが誤解されないと思います。

【加我委員】

先ほど「都市づくり」と「まちづくり」の話で、他はほとんど「まちづくり」ですが、18ページの課題6は「都市づくり」になっています。ここは、ハード整備ということも含めて、「都市づくり」のほうがなじみがいいと思いますし、全部統一してしまうと分かりづらくなると思います。

課題6の6行目に「一方、住宅開発に伴い整備された道路、橋梁、上下水道などの生活インフラや公共施設」とありますが、生活インフラとしての「公園」も入れてほしいです。今、河内長野の一人あたりの公園面積は大阪府下で一番です。市街地開発に伴って昭和40～50年代に造られました。公園も都市施設の一つとして「計画的な更新や適切な維持・管理」ということできちんと手を入れて、リニューアルしていくということで、ここに入れていただきたいと思います。

【副部長】

6はやはり「都市づくり」だと思います。

【部長】

もう少し言えば、田舎の都市づくりですね。

【加我委員】

きちんと住むという環境をめざして、産業として働く環境も自然もありという、生産の場と職の場がきちんとあるのが都市ですので、決して田舎ということよりも、自信を持って都市づくりをやっていただきたいと思います。

【部長】

お墨付きをいただいたので、この都市づくりについてはよろしいですね。他に意見はありませんか。では、次の説明をお願いします。

【緒方補佐】

議事2の第3章と第4章の部分のご説明を差し上げます。前半は私から、「土地利用」の部分は谷ノ上から説明させていただきます。冊子21ページをご覧ください。

第3章「第1節 まちづくりの基本理念」です。横の点線部分に、「計画全体を通じて共通した大切にしなければならない横断的な視点として記載します」ということで、「1. 人・自然・文化との調和と共生のまちづくり」「2. 安全・安心で元気なまちづくり」「3. 市民一人ひとりが主役の、みんなで一緒に創るまちづくり」を挙げています。まちづくりをする上でのベースとして、普遍的にある考え方の部分をここに載せています。

22ページは、この計画でめざすまちの姿をどうしていくのかということところです。「将来都市像」に、キーワード例として下に「人・自然・文化を活かす」「暮らしやすさ」「育みやすさ」「活力の創造」など書いていますので、今日はこのキャッチフレーズや将来都市像をめざすにあたっての重要な考え方、キーワードという部分についてご議論いただければと思います。

23ページは、先ほど修正点をご説明いたしました。引き続き、目標を10万人にするかどうかについて、ご意見を頂ければと思います。

24ページの「土地利用構想」は、課題を5つ並べていますが、この部分は、今日配布させていただいている資料に基づいて、特にこの第2部会は土地利用の部分について、メインでご検討いただきたいので、多くの意見を頂ければと思っています。

【谷ノ上主幹】

本日お配りした「都市空間づくりの考え方」という資料を説明させていただきます。

まず、めざす都市空間の姿として「暮らし」を重点的に表現しています。

2つ目として、「この暮らしの質を高めるため、地域資源を有効に活用し、健康で文化的な都市環境を創造するとともに、安全・安心の確保を図り、地域雇用を創出します」「これらを踏まえ、人口減少の局面を前提として、人口規模・構造や都市活動に見合った都市の姿として「ネットワーク型コンパクトシティ（集約・連携型都市）」の形成をめざします」ということで、このネットワーク型コンパクトシティはどのようなものを、次に表現させていただきました。

通常コンパクトシティという考え方は、まちの中に幾つか拠点を設けて、拠点の連携ということで表現された部分が多いのですが、本市の場合、全市をカバーできるコンパクトシティを表現したいということと、都市的な側面もあれば、森林や里山というような多様な側面を持っていますので、拠点をたくさん設けてというのは難しいため、エリアを明確にし、そのエリアの中で市民一人ひとりが主役になったまちづくりを実践していく中でまちをつくっていくといった考え方があるのではないかとということで、こういう内容にしました。まず「拠点」というところで、「都市拠点」「地域拠点」「観光拠点」と3種類表示しています。「都市拠点」は、「河内長野駅周辺」で、「全ての都市機能を集約し、都市の競争力を牽引する拠点」。「地域拠点」は「千代田駅周辺」「三日市町駅周辺」で、「都市拠点」の機能を補完しながら、周辺地域の生活利便性を担う拠点。「観光拠点」は「高向地区」で、今年できる「奥河内くろまろの郷」を拠点として、「本市の特色である、自然・歴史・文化の魅力を生み出し、発信できる拠点」として位置づけています。

4つの拠点を位置づけた中で、次に「エリア」ということで、現状、小学校区を基本とした「エリア」を考えて、「多様な特色を持つ生活エリア」として位置づけています。

「拠点」と「エリア」を位置づけ、どういう考え方でコンパクトシティを形成していくかですが、1つ目は、それぞれの「拠点」が持つ役割や機能を明確化するとともに、特色を活かした拠点づくりを推進します。2つ目は、小学校区を基本とした「エリア」において、それぞれが持つ異なった特色を最大限に活かしたエリア形成を図ります。次に、「エリア」の中にはない機能がありますので、「エリア」はそれぞれの拠点と連携するとともに、他のエリア間においても連携を図りながら、機能や役割を補完し合うことで、持続可能なまちづくりを創造します。市内での拠点・エリアだけでの連携ではなく、「他市との広域的な連携を強化することにより、さらなる拠点・エリアの魅力向上を図ります」「それぞれの拠点やエリアと連携を強化するため、公共交通ネットワーク及び道路ネットワークの充実を図ります」と書かせていただきました。

コンパクトシティを実践していく中で、「都市空間づくりに必要な要素」ということで、先ほど前段にも書かせていただいた「地域資源の活用」「安全・安心の確保」「新たな雇用の創出」という3つを、エリアづくりの中でこういった視点を考慮して質を高めましょうということを書いています。

「地域資源の活用」については、府下でも飛び抜けた量を誇る豊かな自然環境や歴史的、文化的資源の保全・活用を図りながら地域特性を活かしたまちづくりを推進します。「安全・安心の確保」は、災害に強いまちづくりをめざしながら、誰もが安全で安心して暮らせるまちづくりを推進します。次に、新たな雇用の創出ということで、暮らしやすさを高めるため、地域特性を活かした、農業、林業、商工業を含む幅広い産業の活性化を図り、暮らしの場に近い雇用の場を創出しますということで、働く場が近いということが暮らしやすさにつながる、そうしたところを表現しています。十分な整えができておりませんが、いったんまとめております。

次ページに「河内長野版コンパクトシティのイメージ図（案）」ということで、今、説明したところを表現した図です。河内長野駅の「都市拠点」、千代田駅と三日市町駅の「地域拠点」、高向の「観光拠点」という4つの「拠点」がある中で、そのエリア間でそれぞれ特色が異なる、住の部分が多い部分もありますし、憩いという自然であるとかそういったところが多いエリアもあります。いろいろなエリアがある中で、エリアの特色を活かしたまちづくりを地域の方々と一緒に創り上げて、創り上げたエリアと拠点やエリア間の連携を図っていけるまちづくりをイメージしました。広域の部分で表現が抜けているのですが、そういう意味合いでこのイメージ図を作成しました。説明は以上です。

【部会長】

第3章～第4章の第1節については、10万人にするかどうかのポイントで、今日の目玉は第2節の新しいネットワーク型コンパクトシティが出てきたので、その辺に議論が集中すると思いますが、ご意見を頂戴したいと思います。

【増田委員】

21ページの「まちづくりの基本理念」で、「1. 人・自然・文化との調和と共生のまちづくり」の

下に3つある順番は、「人」「自然」「文化」の順にしたほうが良いと思います。

【緒方補佐】

分かりやすいように箇条書きにしていますが、表題が「人・自然・文化」の順番になっていますので、ご意見を頂戴しながら、いい文章に書き換えていこうと考えています。

【奥野委員】

当市の森林は相当な水準で保たれていると思いますので、今の「本市の魅力である自然との調和・共生」に「豊かな」を入れて、「豊かな自然との調和・共生」のほうが良いと思います。

【増田委員】

異論はありませんが、緑は景観としては豊かなのですが、それを実際に資源として活用しているかというクエスチョンマークがつきます。河内長野に林業はほとんどなくなっていると思います。

【奥野委員】

昔から河内林業ということで、以前は森林組合があって、少ないですが林業で生活している人もおられます。昭和50年代の初めくらいまでは素材生産で丸太だけ切っていましたが、外材とか後継者問題などが増え、林業が業をなさなくなってきました。今までは林野庁の予算でいろいろやってきましたが、今、産直住宅をめざそうということで、いわゆる伐採から住宅建設までの取り組みをしています。今、建設省ではその住宅に対して補助を出していて、他府県でも産直住宅を進めています。ただ、林業でも業にはなっていないけれども、林業をやっている方はおられますので、河内長野市は大阪府でもかなりの森林面積がありますし、それを元に都市計画なり環境施策なりを十分考えて施策に反映していただきたいと思います。

【部会長】

産業としての林業だけではなくて、最後の「めざす都市空間の姿」のところに「暮らしの質を高めるため、地域資源を有効に活用し」と出てくるところに資源がうまく活用されているのか、そこが視点としては大事なところという趣旨でよろしいですか。

【奥野委員】

はい。

【加我委員】

18ページは、経済産業基盤としての林業としての財、財としての豊かさということと、森林や里山に囲まれ農地もあって、河内長野市全般に自然が、多様性があって豊かだということだと思しますので、先ほどご説明いただいたような産業としてということと、自然環境として豊かだということだと思しますので、これは「豊か」が入ってもいいと思います。

先ほどの美観に戻りますが、ここに「環境美観の推進」と入れてしまうと、美しい景観づくりと

かぶってしまうので「環境美化」のままでいいのかなと思います。

【部会長】

場合によっては、環境美化の中身を先ほどのような意味で説明しているところがあってもいいのではないかと思います。

【加我委員】

この前に、「自然環境や歴史的・文化的資源の保全や活用」という話が入っていますので、それを図りながら、加えて不法投棄やごみの問題とかの環境美化も含めて、美化をきちんとやって、美しい景観をつくっていくということです。私が「美化」だけにこだわりすぎたということで、私が説明したことはきちんとこの中で表現されていると思います。安易に「美観」を使ってしまうと、「美しい景観づくり」とかぶると思います。

【部会長】

事務局、そこはもう1回、検討をお願いします。ここは同じようなことを繰り返すのではなくて、多様な意味でより良い文章を工夫していただきたいということです。

【幸山委員】

21 ページに基本理念が3つあって、並んでいるのですが、「3. 市民一人ひとりが主役の、みんなで一緒に創るまちづくり」をすることによって、「2. 安全・安心で元気なまちづくり」、さらには「1. 人・自然・文化との調和と共生のまちづくり」になってくるということで、3をトップバッターに持ってきたほうがいいのではないかと思います。

【部会長】

皆さん、ご意見いかがですか。先ほどの議論からすると、河内長野市では最終目標として質の高い暮らしを求めますと、そのための手段としてこういうものがあるのではないかと考えているので、これは将来都市像のところと関連してくると思います。

【木ノ本委員】

河内長野は一番自然が多いということから、自然の中に初めて人間も生かされているのだという観点からすれば、人間は後のほうがいいと思います。

【幸山委員】

おっしゃるとおりですが、第5次総合計画は、市民が主人公にならないと、河内長野市はもたないと思います。やはりそういう意味でも、市民に分かりやすい総合計画でなければいけないと最初に謳っています。そういう観点や流れからすると、最初に「市民一人ひとりが主役のみんなで一緒に創るまちづくり」をもってくるほうがいいと思います。

【木ノ本委員】

私はあまりこだわりません。

【加我委員】

順序にプライオリティがあるわけでもないと思います。

【辻野部長】

並列的なものとしています。

【木ノ本委員】

基本理念の中にも、次のところにも「生産」という部分が全くありません。市民憲章の3番目にも「わたしたちは、生産することの価値をたたえましょう」とあります。この30年間、河内長野で何が一番遅れてきたかという、生産基盤の整備が立ち遅れたと思います。また、そのことで雇用が喪失し、うまく拡充してこられなかったという反省があります。だから、規模の大小はさておき、第2節のまとめの最後に、農林商工は付け足しのように書いてはいただいています。今、第5次に向かって一番大事なのは、生産の場をどうやって見通し、創出し、誘致していくかにかかっていると思います。その部分が欠落していると思っていますので、何かの形で挿入すべきだと思います。2点目は「エリア」です。私は別に拠点でなくてもいいと思いますが、「拠点」が3つあって、住まいの近くに生産の場をそれぞれに拡充していくという方法をうまく文言に言い表せないかなと思います。「エリア」を小学校区としていますが、今、小学校は幾つありますか。

【緒方補佐】

小学校は13校です。

【木ノ本委員】

中学校は7校なので、私は中学校区くらいでいいと思います。それから、5つの谷がありますが、校区で分けると5つの谷が全部分断されます。山間部もあれば開発団地もあるので、全く補完されていないとは思いますが、総合計画という観点からすると13校区に分けるのはきめ細やかすぎて無理があるのではないかと思います。もう少し大きな観点のほうを大切にすることが必要なのではないですか。例えば、5つの谷プラス市街地エリアを東西南北くらいに分けたほうがまとまりもあるし、目標もはっきりするのではないかと思います。いかがでしょうか。

【生地委員】

私も木ノ本委員と同じで、小学校区エリアは細かすぎると思います。健全育成会や地域の教育活動に関わっていますが、市民としては中学校区単位が一番動きやすいです。小学校区では、各小学校にコミュニティスクールがつくられて活動していますが、細かすぎて隣が何をしているか分からないので、隣の小学校と一緒にコミュニティスクールの会議を行って連携を図っています。私たち千代田の地域では、中学校単位が一番動きやすいです。

【部会長】

私は実態が分かっていませんでした。

【木ノ本委員】

市の職員が実態を分かっているながらこのたたき案を作るというのは理解できません。職員は、実態を知り尽くしていないといけないし、知り尽くして作ってほしいと思います。

【小林副理事】

都市マスでは、中学校区を基本としながら駅周辺といった大きなくくりで地域を考えて、ハードの部分で土地利用など、これから議論されると思います。ここで進めているソフトの部分については、小学校区単位で地域別計画を作ろうとしていますので、実際の生活圏でいえば小学校区ではないかという意味合いで出させていただいたということです。

【副部会長】

今おっしゃったように、エリアの話は2つ意味合いがあって、地域別計画を作る前振りとして小学校区の単位がいいのではないかとということと、都市空間づくりの考え方でいうと都市マスの考え方にかなり近いのかもしれませんが、もう少し大きい枠組みだろうという形で進めています。ただ、ここで出すべきことは何かというと、「拠点」と、いくつかのエリアを単位にしながらそこでまちづくりを考え、それをつなぐネットワークをつくりましょうという、全体の構成を伝えることが大事で、ここでは小学校区と書いていますが、この段階でここまで出すことはない気はします。そういう考え方をしながら都市空間づくりをしていくということが大事ですということだけ、きちんと言っておけばいいという気がします。

【木ノ本委員】

市街地でも人口減少しています。さらに、5つの谷それぞれが重大な問題を抱えています。それを小学校区でくくってしまったら、身もふたもありません。例えば、公共交通ネットワークで結びましょうと言っても谷単位なので、小学校区を持ち出しても無理難題がいっぱいあります。もう少し後ろに引いてみて、客観的な部分も含めて考えるべきではないかと思います。

【上野委員】

あまりにも漠然としていて分かりにくいです。市が考えているイメージはどういうものですか。学校単位のPTAにいうのか、各自治会にいうのか、連携をとるのか、どう考えているのですか。

【小林副理事】

そういうことではなくて、ここのコンパクトシティは、拠点づくりをして、その他の地域と連携を取りながらまちづくりを進めていきたいと思いますという意図です。一応、エリアの考え方として小学校区を基本とした提案をさせていただいています。

【副部会長】

明確に言い切れないのは、小学校区を基本としたエリアを抱えていて、相当地域性があるということを経務局も理解されていると思います。

【森脇委員】

「都市拠点」と「地域拠点」の千代田・三日市は、完全ではないですが、もう既に整備されているように思います。拠点づくりと書いていったい何をやるのですか。天見とか千早口とかに住んでいる人は、自分たちのまちにこの計画によって何をしてくれるのか知りたいと思います。居住環境、生活利便性を高めますということは、コミュニティバスでも走らせてくれるのですか。計画として総花的にいろいろと書かれていても、地域によっては、何をしてくれるのですかという疑問が出てくるのではないかと思います、いかかでしょうか。

【部会長】

これはあくまでもビジョンというか抽象的なものという議論と、一方で、その背後にはきちんとした具体的なものが入っているということですね。

【副部会長】

疑問は出てくると思いますが、それを書き込めるかというのと、とても書き込めない話なので、ここでは基本的な考え方を示すしかないと思います。ただ、重要なメッセージは少し書き込んでいただきたい気もします。地域の多様性がある河内長野は、地域ごとに考えていくことが大事で、ここではそのことをきちんと書くべきだと思います。今はどちらかというところ、駅前など、ある程度都市機能が集積している所に論点がいっていますが、そうではない所もきちんと考えることをしっかり言うておくことが大事です。具体的な話は、総合計画のレベルでは書けないので、そういう考え方に沿ってアイデアや施策ができるかどうかという検討は必要だと思います。

【森脇委員】

細かいことを書かなくても、自分たちが住む所にこの10年で何をしてくれるのかは知りたいと思います。拠点を整備すると書いてありますが、この拠点は既に整備されています。

【副部会長】

拠点を整備するとは書いてはなく、拠点として位置づけて、その周辺に市街地が広がっている単位を、まちをつくっていく単位として考え方で都市空間をつくっていくということです。

【森脇委員】

3つの拠点の都市空間というのは、もう既にできているのではないですか。

【副部会長】

多分課題はいっぱいあって、例えば職住近接みたいなことは、実現できていません。道路などは

通っているかもしれませんが、もっと暮らしたいまちにしていくには、変えていかないといけない部分があります。その単位の中で、仕事があるというのが一番いいことです。

【木ノ本委員】

高齢者から若い方まで地域の方々が、自分たちの地域の将来をどのように描いていくのかを想像できるような、またその手助けができるような総合計画でないと駄目だと思います。市が計画して押し付けるのではなくて、地域の方も巻き込んで、その地域の特色を活かしてどういうまちづくりを創造するのか。皆さん方の知恵を借りて具現化するたたき台だと思います。そうすると、できるだけ簡潔に分かりやすく、まちづくりをみんなで一緒に創っていきけるくくりをどういう形にするのかが大事ですし、その中で共通の課題は何かということが大事だと思います。そのくくり方を間違ったら最初から混乱すると思います。

【部会長】

くくり方については幾つか議論が出ているので、もう1回考えていただくことにします。人口が減って高齢化したときに、果たしてその地域やコミュニティなどがもつのが大きな問題です。

【木ノ本委員】

拠点がお互いに競い合う仕組みをつくるのが大事だと思います。

【部会長】

それは次のステップですね。先ほど、自治会が基礎単位と言われましたが、例えば、高齢化して自治会活動の担い手がいなくなると、もしかすると、今の自治会ではもたないのではないかと言いたかったのです。まちづくり協議会で小学校区まで地域を広げて、そこで担い手をつくろうと狙っているのかと思ったのですが、そうではないのですか。

【副部会長】

一般的にまちづくり協議会が増えているのは確かで、多くはテーマ型のコミュニティです。自治会だけで全てやるのは大変なので、サポートする車の両輪がもう1個いるという考え方と、もう1つは地域の活性化のために、住民以外にNPOなど、もっといろいろな人が参画する機会をつくるという考え方です。ただ、その役割は明確にしないと似たような組織が出てきます。各地で問題になっていますが、実際には自治会の負担が減るという話でまち協ができたのに、自治会の役員はまち協にも関わるため、会議が増えてしんどいということです。担い手を増やしていくという意味では、やはり必要なことだろうと思います。

【木ノ本委員】

河内長野のマイナス点は、よそからの方を受け入れようという体質がありません。よそ者という感じが強くて、バリアが高いので、最初にお互いの役割を明確にしておかないと、どっちがどっちか分からないような形にするのは非常に問題があります。

もう1つは、自治会組織の組織率が7割というのは、まだまだ高いほうです。そのことを放置するのではなく、もっと自治会への加入促進をして、密度の高い組織にする努力をほとんどしていません。そこに力を注ぐことで、それぞれの役割は明確になってくると思います。

【部会長】

これからのまちづくりを進めていく上で、非常に重要なキーになるところなので、もっと自由に議論していただいて、それを参考に、事務局にいろいろ考えてもらいたいと思います。

【木ノ本委員】

各地域の課題はたくさんあります。行政がその課題をどれだけ吸い上げて、どれだけ理解するかということも努力が足りないと思います。

【副部会長】

土地利用構想は少し方針を変えるということで、今回は別紙で出ていますが、もともとの24ページは、企業誘致、中心市街地活性化、道路、開発団地、特定機能地域のあり方で、間違いとは言いませんが、生々しくて並びとしてはよくないと思います。ここでは、なぜこういう施策が大事なのか、理解できる流れとして、そもそも論を書くべきではないかと事務局には申し上げたので、今回のペーパーが出てきました、逆にやや詳しくすぎて、分かりやすすぎると思います。事務局は素直に書かれたと思いますが、これを総合計画に載せると生々しすぎるので、もう少し考え方をベースに整理されたほうがいいと思います。

もう1点は、各地域の特色があることは強調したほうがよくて、だからこそ地域別に考える必要があって、これがポイントになると思います。先ほどの拠点と地域の関係は、きちんと伝えられていないと思います。基盤整備が足りないから道路を造るということだけの議論をしているのではなく、職住近接とか多機能化、公共施設の再配置も入ってくるかもしれません。その地域で考えるところで、出来上がっている地域や完成している地域がたくさんあるのではなくて、時代に合わせて変えていかないといけないということが見えてこないといけないと思います。

確かに、これをぱっと読むと、河内長野と千代田と三日市は何かやってくれそうだが、名前がない所は何もやらないのかという話になります。事務局もそういう意図で書いてはいないと思うので、その辺りも入れていただくといいと思います。

【増田委員】

「観光拠点」は、そこに住んでいる人や、外からの人が見にくるという意味で使っていると思いますが、「観光拠点」の内容にある「自然・歴史・文化の魅力を創造し、発信できる拠点」という言葉は違うのではないかと思いますので、もう少し何か言葉を考えていただけたらと思います。

【部会長】

私が誤解しているのかもしれませんが、先ほど嘉名副部会長が言われたのは、地区をどうするかは、地区の人たちがそれぞれの特色に合わせた案を作ればいいという、基本的な考え方ではないか

と思います。三日市などの「拠点」は少し異質で、エリアを基本的な考え方として、エリアごとにまとまった形で、その地域をどうするか考えましょうということで、それがまちづくり協議会の役割になると思います。それをもう少し進めると、例えば、お金の使い方は、まちづくり協議会に40万円ではなく、地域にもう少し下ろした形でとか、またややこしい話になると思いますが、例えばそういうことを進めていくこともあると思います。

【渋谷委員】

コンパクトシティは、既に行政として想定されているとおりであれば、この図式だけでいいのではないかと思います。エリアはいいと思いますが、都市にもならないような所なので拠点にはこだわらず、総論でコンパクトシティをもう少し市民が分かるように説明して、あとはこの図で維持して、各地域の不足している部分等、監視していくことが大事なことで、それによってコンパクトシティは成り立っていくのではないかと思います。

【副部長】

皆さんの理論からすると、やはり地域別に考えて、それを強調していくことが大切で、拠点づくりの話では、事務局は河内長野、千代田、三日市より「くろまろの郷」を強調しておきたいのかなという気がします。エリア別で考えていく中で、地域に特徴的な、あるいは多様な拠点づくりを組み合わせてやっていくとか、それくらいの書きぶりでもいいのではないですか。ここが何拠点ですと羅列することは、このレベルの話ではあまり重要ではない気がします。

【渋谷委員】

エリアは今後でもよくて、計画は全て総論でもいいです。総論を各論に広げていくわけで、拠点はこことかエリアは小学校区とか、各論をここへ書く必要はないと思います。

【木ノ本委員】

「くろまろの郷」へは公共交通とマイカーとなっていますが、主にマイカーになっています。また、観光の拠点は、どうしても河内長野や三日市が多くなっていると思います。くろまろの郷もいいとは思いますが、それぞれ多様な中で全て拠点を書くのは難しいです。

【上野委員】

市長は、今年度、「観光の拠点として「くろまろの郷」を発信します」と挨拶されています。それは、車で来られた方々にそのまま河内長野の自然、神社やお寺に行って文化財を見ていただき、知っていただくという意味で「発信」とおっしゃっていると思います。観光協会の役員をしている関係上、利用された方が次の所に行ってくださいという形で理解しているのですが、事務局、そういう考え方でいいのですか。

【辻野部長】

市としては、第4の拠点という位置づけで「くろまろの郷」を計画していますが、奥河内構想の

出発点として、いわゆる奥河内の発信の拠点という位置づけです。

【上野委員】

我々は観光協会として、そういうことは聞いていません。

【木ノ本委員】

観光というのは、河内長野市民が対象ではなくて、大阪や県外、世界に発信しないといけないと思います。その部分が抜けてしまっています。

【辻野部長】

総合計画は基本構想があって、もう少し具体的なところで基本計画があります。さらに具体的なものは、都市計画マスタープランで事業が出てきます。今は構想レベルなので、どの辺まで書くかです。

【副部長】

赤裸々に書いていただいたという意味ではいいのですが、もう少し簡単にまとめる方向がいいと思います。これだけたくさんの意見を頂いたということは、良いたたき台になっていると思います。

【辻野部長】

またご意見を頂いて、増田会長にも相談して、もう少し整理させていただきます。

【中林委員】

市は奥河内、高向を主体に物事を考えているし、委員は河内長野全体というよりむしろ三日市の寺社のほうに力を入れているように思います。だから市も、あまり主体的に書かないほうがいいと思います。

【木ノ本委員】

これからの河内長野を成功に導けるか導けないかは、市の内外ともに情熱のある人材育成だと思います。物知り博士よりも、現場に強くマネジメント能力が高い人、信念を持った方の人材育成をめざせば成功すると思います。

【部長】

それは推進体制のところになると思います。事務局に聞きたいのですが、今日は第3章のまちづくりの基本理念と将来都市像について議論すべきだったのですか。その辺はあまり議論せずに、土地利用にってしまったのですが、次に議論する機会がありますか。

【小林副理事】

まだまだこれはご議論いただきます。次は第5章で具体的な施策等も出てきますが、今後、最後

まで、また第3章に戻りつつ議論していくと思います。

【部会長】

最後まで不確定な状態でいくということです。前回の議論で、例えば人口が減少した時に、いろいろな意味で支えられるのか危機感を持ちました。その辺が、例えばまちづくりの基本理念のところに出てこなくていいのかとか、それはもっと後ろのほうの議論なのか、少し気になります。

【副部会長】

この辺は、文章になると、これが足りないとか、いろいろな意見が出てきそうな気がします。

【森脇委員】

具体的なエリアの話で、天見は買い物にしてもお医者さんにしても、三日市なり河内長野の拠点がカバーするという考え方なのですが、三日市や河内長野は放っておいても発展するかもしれませんが、天見に住んでいる人にとっては具体的な利便性が大事で、そういう不便な状態を10年後にどうしてくれるのか、今の状態のままなのかということだと思います。それが人口増減につながってくる問題だと思います。

【部会長】

嘉名副部会長は都市計画の立場ですが、私は商業の担当です。青森市がはじめてコンパクトシティを言いはじめたのですが、みんなが広がって住むと除雪費用だけでも大変になるので、財政を何とかするには、中心市街地に良好な住宅を建てて、公共施設も中心に置いて、郊外に分散していた都市機能を集約して、そこに住んでくださいというのがコンパクトシティのイメージです。これをここに持ってくると、その拠点が幾つかできるイメージになります。そうすると、東北のコンパクトシティとここでいうコンパクトシティは少し違って、もちろん生活基盤みたいな機能もある程度集約しながらになると思いますが、多分、河内長野では、もっと広域で機能をお互いに重複したり、補完し合ったりというのが出てくると思います。

【副部会長】

多様な地域が隣り合っていることを活かしながらも、人が減ってお金が減る中で、各地域に投資してさらに利便性を高めるという政策はできないことははっきりしています。そこは、限られたお金の中で何ができるのか、知恵を出し合って考えていかざるを得ないのは確かです。

【森脇委員】

できないのに居住環境の生活利便性を高めると書くのは、人をだましているみたいです。

【副部会長】

各地域にスーパーをつくりますという話ができないと申し上げているだけで、別にここに書いてあることができないと言っているつもりはありません。

【木ノ本委員】

客観的に冷静に見ないと、実現不可能なサービス合戦になるので、それは駄目だと思います。

【部会長】

いろいろな議論の中で、コンパクトシティの意味などだんだん分かってきて、ある意味、共有できていると思うので、いったん整理して、次回またそれを踏まえて議論したいと思います。

【加我委員】

第2節は、従来型のマスタープランで書くのではなく、土地利用のための仕組みを書くのだと思います。そうすると、「土地利用構想」がいいのか、「土地利用を健全化していくための仕組み」がいいのかは考えないといけないと思います。それから、めざしているコンパクトシティは、拠点ではなくて、ネットワーク型で連携する。ネットワークで連携するということは、各エリアが個性を持っていないと連携する意味がなく、互いに持ってないものを補うという土地利用をやっていくということだと思います。コンパクトシティというと集約ということだけが目立ちますが、ここで提言されている連携型コンパクトシティというのは、可能性があるというか、今、重要なのかなと思っています。あと、総合計画に書くかというのは私も少し迷っています。

【副部会長】

連携やネットワークが一番下に書いてあるのですが、公共交通と道路の話に落ちてしまいます。ネットワークにはもう少し人的な話とかいろいろあります。

【加我委員】

そうです。移動を支えるだけではなくて、人と人々が結びつくこともあると思います。これでは少しハード整備に短絡的にいく感じがします。

【部会長】

今日はこんなところでよろしいでしょうか。いろいろご議論いただき、ありがとうございました。

【緒方補佐】

前回の議事録案は、ご自身の発言をご確認いただいて、もし修正点がありましたら、11月14日(金)までに事務局にお知らせください。

次回は、全体会を11月26日に開催しますので、ご参加よろしく申し上げます。次の部会は、12月の日程を調整させていただき、決まり次第、通知させていただきます。

【部会長】

今日はどうもありがとうございました。